

## 2013 年度 小委員会活動成果報告

(2014 年 2 月 7 日作成)

小委員会名	環境振動性能評価小委員会		主 査 名：松本 泰尚 就任年月：2013 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (環境振動運営委員会)		委員長名：田辺 新一 主 査 名：横山 裕
設 置 期 間	2013 年 4 月 ～ 2015 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 環境振動にかかわる最新の研究、および実務の動向に関する情報収集</li> <li>・ 国際規準(案)にかかわる審議</li> <li>・ 環境振動性能評価の現状や問題点の把握、および課題の抽出</li> <li>・ 今後の環境振動性能評価のあり方の模索</li> <li>・ 環境振動に関する性能評価手法の学会会員への普及</li> </ul>		
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：有 (公募により委員 3 名が新規参加)		
	主査：松本泰尚 (埼玉大) 幹事：新藤智 (法政大) 委員：石川孝重 (日本女子大), 石川理都子 (大林組), 植松武是 (北方建築総合研究所), 内田季延 (飛島建設), 川久保政茂 (円石コンサルタント), 国松直 (産業技術総合研究所), 鈴木雅博 (鹿島建設), 久木章江 (文化学園大), 濱本卓司 (東京都市大), 益田勲 (日本 交通技術), 森下真行 (前田建設工業), 横山裕 (東京工業大)		
設置 WG (WG 名：目的)			
2013 年度予算	60,000 円	ホームページ公開の有無：有 (運営委員会 HP の一部) 委員会 HP アドレス： <a href="http://news-sv.aij.or.jp/kankyo/s17/AIJ_EVindex.html">http://news-sv.aij.or.jp/kankyo/s17/AIJ_EVindex.html</a>	

項 目	自己評価
委員会開催数	5 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	
大会研究集会	
対外的意見表明・パ ブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得ら れた成果との関係)	1. 最新研究, 実務の動向に関する情報収集に関連し, 今年度大会発表に関する 情報共有を行った 2. 国際規準(案)に関わる審議に関連し, ISO 2631-2 の定期見直しに対しコメン トを提出した 3. 性能評価の現状や問題点の把握と課題抽出, 今後の性能評価のあり方の模索 に関連し, 居住性能評価指針の改定に関して検討した
委員会活動の問題点 ・課題	特に無し

\*小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。

\*表中の「(書名)」等の赤文字は、記述を誘導するための説明である。記載の有無にかかわらず最終的には削除のうえ提出する

こと。

- \* 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。
- \* 中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

環境工学委員会用 自己評価欄

## 2013 年度 小委員会活動 自己評価

### (中間年度評価・最終年度評価)

総合評価 (4段階評価)	A	B	C	D
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<p>本年度の活動は設置目的に沿って進めることができたと考えているが、年度初めに主査が急遽交代することとなり、前年度に小委員会設置を申請した際の計画通りには進まなかった点もあったため、総合評価を B とした。</p> <p>評価にあたって考慮した今年度の具体的な活動内容を、設置目的および活動計画と関連させて、以下に示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境振動にかかわる最新の研究、および実務の動向に関する情報収集           <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 今年度の大会発表に関する情報共有を行った。環境振動は、構造など環境工学以外の分野での発表にも関連するものがあり、各委員が広く情報収集することにより、十分な情報を収集することができた。</li> </ul> </li> <li>・国際規準(案)にかかわる審議           <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 建築物の振動評価に関する国際規格である ISO 2631-2 の定期見直しにあたり、専門的見地からの審議に基づくコメントを提出することで、当該規格を担当する国内委員会に協力した。</li> </ul> </li> <li>・環境振動性能評価の現状や問題点の把握、および課題の抽出</li> <li>・今後の環境振動性能評価のあり方の模索           <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 居住性能評価指針検討 WG で進んでいる指針改定に関する検討に対し、上記の視点からの審議内容を提供することで協力した。</li> </ul> </li> <li>・環境振動に関する性能評価手法の学会会員への普及           <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 居住性能評価指針検討 WG の委員でもある本小委員会の委員が、第 32 回環境シンポジウムにおいて、現在検討中の性能評価指針の改定に関する講演を行った。</li> </ul> </li> </ul>			

- 総合評価は4段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
  - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
  - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から80%の達成度
  - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から70%の達成度
  - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。